

観音堂

観音堂は、鎌倉時代初期（1185–1333）に元の本堂の跡地に建設された。しかし、その建築スタイルは古典的な天平時代（710–794）の特徴だった。かつては本堂横の建物、釣り殿として機能していた。

このシンプルな御堂は、特筆すべき耐久性を持っている。平等院の長い歴史の中で、多くの寺院の宝物や御堂、塔が火事で失われ、鳳凰堂、観音堂のみが残された。観音堂は、鳳凰堂や鐘楼ほど古くはないが、木造建築物のように、何世紀にもわたる火、戦争、地震、天候に耐えてきた。

観音堂の本尊は十一面観音で、傍に立つ地蔵菩薩は平等院のミュージアム鳳翔館で拝観することができる。観音堂は現在、改装のため訪問者に閉鎖されている。